



発生、悪臭、汚染と
 題がたまる。感染症
 発生の迅速かつ適
 適切処理が求めら
 れている。

P A S A P シ
 リーズは感染動物
 の処分場での作業
 負担を軽減し、つ
 づつ埋却地におけ
 る近隣環境保護と
 感染拡大防止を同
 時に実現するため
 に同社が開発し、
 2012年度から有
 用技術として二部
 部の都道府県で導
 入され、有効性な
 実証されている。

P A S A P

未来創造化学®の確立を目指す化学基業として、カネのテクノ二大社会（神戸市 寺尾本社 長 〇78・436・0280）はこのほど、環境保全を実現する新技術として、国内初の家畜感染症対策・環境保全ソリューション「PALSAUP」シリーズを発表・特許を取得した。動物感染症

における処理・埋却後の汚染体液漏出防止を目的としたシリーズと

近年、世界的な鳥インフルエンザのまん延により、感染ルートが多岐化し感染が全国的に急拡大している。その上、事態に連なり、感染動物を殺処分後、埋却地から汚染液が流出し、農業用水への悪

A 剤（感染動物の処理用）は、動物の体液を素早く吸収・固定し、移送時の漏れを防ぐことで、作業者の感染リスクを軽減。汚染液体による感染リスクを大幅に低減する他、積載や袋破損時における液漏れを防止し、安全な移送を可能とする。

「PAL SAP」 B 剤（感染鶏卵の処理用）は、高粘性の卵液を吸収・固体化して移送時の漏れを防止するだけでなく、燃焼効率が高（従来比約 2・5 倍）

「PAL SAP」 L 剤（埋却地の環境保全用）は、埋却後に散布乾燥させるだけで表面に黄

連企業における感染症対策を最前線で支援し、持続可能な環境保全に取り組んでいく」とし、今後も自治体・農場・関連企業と連携しながら迅速な対応をサポートし、さらなる技術革新を推進する。

テクニカ合同

家畜感染症対策で自治体などサポ一ト

環境保全を実現する新技術を発表

固な膜を形成する。降雨や台風による汚染物質の流出を防ぐことで、長期的な地域環境汚染対策に貢献可能とした。